

〔研究ノート〕

ChatGPTによるフィードバックがEFL環境下における 学習者のライティングスキルに与える影響

城 野 博 志

名古屋学院大学経済学部

要 旨

本研究ノートでは、生成AIの一つであるChatGPTが提供するフィードバックがライティングを学ぶEFL学習者に与える影響を扱っている先行研究を対象に考察を加えてみた。主に2022年度以降に発表された、ChatGPTとフィードバックに関連する文献を選定して、多くの生成AIの中でChatGPTがなぜ今日ここまで注目を集めるようになったのかその背景をまず概観した。続いて、中等・高等教育機関の現場で利活用されている、ChatGPTと言語学習の実態に焦点を当てた。3番目に、ChatGPTの信頼性、人間とChatGPTの評価の違い、その強みと弱みを掘り下げた。4番目に、実際に教育現場でChatGPTを利用するに際しての留意点が取り上げられている。これらの考察を通して、ChatGPTが多くの課題を抱えているものの、教育の現場で実装していくことを検討するに値する効果が期待できることが明らかとなった。今後のChatGPTを始めとするAIリテラシーがますます求められる高度情報化社会において、それが持つ効果と課題を念頭におきつつ、導入を慎重に検討する必要性が本研究ノートにはまとめられている。

キーワード：Chat GPT, フィードバック, EFL学習者

The impact of ChatGPT feedback on learners' writing skills in an EFL context

Hiroshi SHIRONO

Faculty of Economics
Nagoya Gakuin University

1. はじめに

フィードバックはEFL環境下でライティングを学ぶ学習者にとり第二言語を習得する上で効果的であると言われてきた。フィードバックは、学習者が自分の誤りを認識し、修正する手助けをするため、言語習得の促進に大いに貢献する。特に、ライティングにおいては、自分の間違いを訂正することで、文法や語彙の使い方の精度が高くなることが期待される。Ferris (2010, 2012) の研究では、エラー訂正が学生にとって効果的な学習機会を提供し、特に文法や構文の誤りを訂正する際に重要だと報告されている。Hyland & Hyland (2006) は、フィードバックが誤りを修正する機会を提供し、学習者が自己修正の技術を向上させる手助けになると指摘している。また、フィードバックは学生が自信を持って言語を使用できるようになるために必要不可欠だと述べられている。

フィードバックの効果は誤りの修正や言語習得の促進に留まっていない。フィードバックは動機づけの向上につながる可能性が高い。とりわけポジティブなフィードバックは、学習者のモチベーションを高め、さらに学び続けようという意欲を引き出す効果がある。フィードバックを受けることで、学習者は自分の進歩を実感し、次回の課題に対して前向きな姿勢を持つことができる。Hattie & Timperley (2007) は、フィードバックが学生の動機づけに与える影響を示して、特に具体的で建設的なフィードバックが学習意欲を高めると述べている。フィードバックを受けることで、自分の学習進度を評価でき、次の目標に向けて努力する力を得ることができる。

ライティングの分野において、その重要性が高く認められてきたフィードバックであるが、そのフィードバックは指導経験や言語知識が多様な指導者によって行われてきたために課題も多く抱えていた。Huang (2023) は、多様な学習者がいるEFL環境下のライティングでは、個別の建設的なフィードバックを提供することは、時間がかかり精神的にも負担が大きい作業とみなしている。山下等 (2024) によれば、フィードバックは骨の折れる作業なため、生徒数の多い高等学校などではライティングそのものがあまり行われてこなかったという報告が紹介されている。Teng & Huang (2025) によれば、教師によるフィードバックはしばしば一般的すぎて、意味のある修正を導くために必要な具体性に欠けるという批判が寄せられている。さらに、教師のフィードバックが、個々の学習者のニーズに必ずしも対応しているとは限らないという指摘もある。

こうしたフィードバックにかかわる課題を解決する方向で脚光を浴びているのが生成AIである。Huang & Mizumoto (2024) によれば、生成AIは、学習者ひとり一人の進捗状況や学習スタイルに基づき、双方向で個別化された言語練習の機会を提供できるとされる。また、即時フィードバックを与えることで、フィードバックの個性と相まって、学習者は効率的な学習プロセスの改善が期待できる。水本 (2024) には、ChatGPTは時間や場所を問わず利用できるため、個別最適な学習へとつながるとの示唆がある。さらに、ChatGPTとの双方向なやり取りが学習者の学習意欲を高め、主体的学習を促進する効果が期待できると紹介されている。Chan et al. (2025) は、従来の人間の手によるフィードバックは効果的ではあるものの、教師にとって時間がかかるプロセスであり、採点はしばしば教師の負担やストレス源となっていると指摘している。それ故に、生成AIによる自動化されたフィードバックは、教育者の負担を軽減し、一貫性があり迅速で個別最適な修正情報やアドバイスを

学生に提供できると予想される。

水本（2024）によれば、生成AIで最も普及度が高いChatGPT発表からわずか2年足らずの2024年上半期には、系統的レビューが何本も発表されている。（Yang & Li, 2024; Lo, Hew & Jong, 2024; Li et al., 2024; Law, 2024）。これらの中で、ChatGPTが学習者の動機づけや学習意欲にポジティブな影響を与える可能性が示唆されている（Yang & Li 2024）。とともに、学習者エンゲージメントについて、行動面、感情面、認知面から系統的レビューが行われている（Lo, Hew & Jong, 2024）。

2. ChatGPTと言語学習の現状

吉田（2023）によると、生成AIとは学習したデータを基にテキストや画像などのコンテンツを生成できる人工知能を意味する。ChatGPTはOpenAI社が2022年11月末に公開した、会話（chat）ができる生成型AIで、GPTとはgenerative pre-trained transformerの略である。膨大な量のテキストデータを事前に学習し（pre-trained）、自然言語の文脈に応じた単語の並びを予測し、それを元に言語を理解し生成する能力を持つモデルとして注目を浴びた。2023年1月までに、わずか2か月で1億人以上のアクティブユーザーを獲得し、最も急成長し広く受け入れられた人工知能（AI）ツールの一つとなった（Teng, 2024）。

その躍進の要因として考えられるのがChatGPTの持つ強みである。1番目の強みは、その能力の高さで、MBA科目試験に合格するのみならず、米医師試験に合格するラインに達している。他にも、米司法試験で上位10%のスコアを獲得する、大学院共通試験で高成績を治めるなど、多様な課題をこなす高い能力を有している（吉田, 2023）。次に、以前の生成AIがコンピュータープログラムを使えるユーザーに限られていたのに対して、ChatGPTは自然言語でしかも多言語に対応しているので、使いやすさがその飛躍の要因として考えられる（Mizumoto & Eguchi, 2023）。旧世代のチャットボットが、学生の反応に基づいてあらかじめ定義された固定の回答しか提供できなかったのに対して、ChatGPTは、より複雑で柔軟に適応できる文脈を処理することができるようになったことが第3の要因として挙げられる（Ng et al., 2024）。

生成系AIの教育的利用は、始まったばかりで使い方はまだ模索段階である（山下等, 2024）。その一方で、このような高い能力を持つChatGPTは外国語教育や外国語学習に広範で大きな影響を与えることが予想される。金丸（2024）は、ChatGPTが外国語教育に与えたインパクトとして、スピーキングとライティングの領域を取り上げている。スピーキング領域では、学習時の会話機会の増加やスピーキング能力の向上や、外国語不安が軽減し、動機づけが増進したYee, Lai & Lee（2024）が紹介されている。ライティング領域ではAIによる自動フィードバックに高い効果が認められたWu（2024）、学習の達成度に対しても高い効果をもたらしたXu & Wang（2024）が取り上げられている。Qazi, Munir & Zaigham（2025）は、ESL下での言語学習にAIを使用することが外国語への不安を軽減すると主張している。同様に、AI支援型の言語学習が、学生の自己調整学習を促進し、学習プロセスへのエンゲージメントを確実にし、学習者の向上につながる可能性を指摘する。

文部科学省は、2023年7月に「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイド

ライン」と「大学・高専における生成AIの教学面の取扱いについて」という指針を相次いで発表している。これらの指針には、生成AIの教育機関での利活用に関して想定される場面や留意すべき観点などがまとめられている。そこでは、具体的な活用場面で、生成AIが主体的な学びの支援に有効に働く例として、ブレインストーミングなどが取り上げられている。この指針を踏まえ、文部科学省は、教育活動において生成AIの活用に取り組むパイロット校を52校指定した。「効果的な教育実践の創出」を行うことを目標に、今後の更なる議論に資するよう、知見の蓄積が進められている。公表されている「生成AIの活用方法に関する教育実践」指定校実践事例のうち、英語学習におけるAI活用の実践例は25件にのぼる。また、2025年1月には成果報告会が開催され、パイロット校での授業実践報告がなされた。そこでは、英語でのやり取りを苦手を感じる生徒も含めて、個々のレベルに応じた個別最適な学びを提供することで、「もっと話したい」などの生徒の主体性を高めることに成功した実例が紹介された。生徒がプロンプトを設定し、自分の興味のあるテーマで生成AIと英会話をする授業実践も報告されている。また、「生成AIを使って、主体的で対話的な深い探究型授業を開発する」を目的に、コンテンツの生成を授業案に取り込む学校の紹介もあった。さらに、生徒が生成AIと「一緒に学ぶ」という文脈の中で、生徒は学びに心を開き、「主体的で対話的な学び」に向かうということが確認されたと報告されている。生成AIを使った授業に「大変満足している」・「満足している」との生徒からの回答が95 %を超える結果も示された。

教育の現場におけるChatGPTを始めとする生成型AIの言語学習での利活用は、山下等（2024）が言うようにまだまだ模索段階であるかもしれない。しかし、AIの持つ潜在的な能力はEFL環境下での言語教育に多大な影響を及ぼすことは間違いなさそうである。そのような機器を授業の中に実装していくに際して、指導を担当する側としてどのような意識を持って対峙していけばよいのであろうか。そのことを考える上で、金丸（2024）のスタンスは参考になると思われる。金丸は、ヴィゴツキーが提唱した「発達最近接領域（Zone of Proximal Development: ZPD）」という考え方に基づいて、AIとともに学ぶ学習者（支援者）として扱う。ZPDは、学習者が一人ではできないが、外部の助けがあればできる領域のことを指し、この領域での学習が、最も効果的な成長や発達を促すと考えられている。従来は支援者として人間が想定されていたが、生成AIの登場により、AIがその代わりを務める可能性が見え始めた。AIが提示する情報による足場掛けを基に、学生が自律的に知識や理解を深めていくことができるのではないだろうか（図1）。

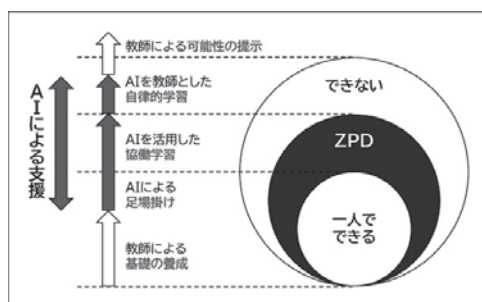


図1 ZPDに基づくAIによる学習支援

3. ChatGPTとフィードバック

3.1 ChatGPTの信頼性

フィードバックが内包するその課題を解決する道筋を提示できる可能性を持つ ChatGPT などの生成 AI ではあるが、フィードバックのベースとなる ChatGPT のライティングに対する評価の正確さや信頼性はどうかであろうか。Mizumoto & Eguchi (2023) は、ETS (Educational Testing Service) の非ネイティブ英語ライティングコーパス (TOEFL11) に含まれる 12,100 篇のエッセイを GPT-3 に自動採点させた。GPT が生成したスコアと標準スコアとを比較した結果、GPT を使用した AES (Automatic Error Correction) が一定の精度と信頼性を持つことが明らかとなった。さらに、特定の言語的特徴を加味すると、スコアリングの精度が向上することも判明した。この結果から、GPT を用いた AES が一定の精度で実施できそうであるとの判断を下し、評価時間の短縮やスコアリングの一貫性の向上などを通して、先述したようなフィードバックが内包する課題を解決する糸口となる可能性が示唆された。

Mizumoto et al. (2024) は、232 人分の Cambridge Learner Corpus First Certificate in English (CLC FCE) データを使って、ChatGPT、Grammarly¹⁾ と人間による評価の正確さを比較している。結果として、ChatGPT の評価は人間の評価と強い相関を示し ($\rho=0.79$)、2 つのパフォーマンスに大差がないことが分かっている。また ChatGPT の評価の方が人間の評価よりもライティングスコアとの相関がわずかに高いことも明らかになり、優れた予測精度が鮮明となった。Mizumoto et al. は、正確さ以外の尺度も ChatGPT の評価基準に組み入れて、その精度を高めていく必要性は認めつつも、L2 ライティングにおける ChatGPT の研究を進めていくべきと結んでいる。

3.2 ChatGPTによる自動評価と人間の評価との違い

人間による評価と変わらぬ精度をもつ生成 AI ではあるが、ChatGPT によるフィードバックと人間によるそれとではどのような違いがあるのだろうか。Bucol & Sangkawong (2024) は、タイの EFL 大学生が書いたライティング・サンプルを用いて、事前に作成された分析的なルーブリックに準拠した生成 AI (ChatGPT) の評価と人間の評価者によるものを比較した。得られたデータに対して、定量的および定性的アプローチで分析が加えられ、ChatGPT の評価ツールとしての強みと弱みを明らかにした。その結果、ChatGPT と熟練した評価者によるフィードバックの間で次のような違いが明らかとなった。まず、AI が生成したスコアは比較的高く、人間の評価者の評価と比べても内的一貫性が高かった (ChatGPT: $\alpha=.980$, 人間の評価者: $\alpha=.926$)。次に、AI はルーブリックの各基準を包括的に理解でき、正確な数値評価とコメントをコンスタントに提供できた。3 番目に、ChatGPT は全ての課題を 5 分以内で採点できたことが確認され、迅速にスコアとコメントを提示できた。さらに必要に応じて反復的にフィードバックを提供し、評価プロセスの効率化に貢献する可能性が示された。

Guo & Wang (2024) は、ChatGPT が EFL 学生の英語論説文に対してフィードバックを生成する能力と 5 人の中国人 EFL 教師によるそれとを比較した。その結果、ChatGPT は教師よりもはるかに

多量のフィードバックを生成することが分かった。また、教師のフィードバックの指摘内容が、主に内容と語彙に関連した項目に集中していたのに対し、ChatGPTは内容・構成・語彙の3つの領域で偏ることなくフィードバックを提供していることが判明した。

Mizumoto et al. (2024) は、前述のとおり、ChatGPTによる自動評価の精度が正確性の尺度に関して、人間のそれよりも優れていて、評価の信頼性が高く、代替手段として有用である可能性を示唆した。Mizumoto et al. では両者による評価の違いにも言及されている。それによれば、エラーのカテゴリーが両者間で重複する部分が多いものの、違いも観察されている(表1)。「W: 語順」, 「U: 不要」, 「MV: 動詞欠落」のようなカテゴリーは、人間の評価者のトップ10には含まれていない。

表1. エラー上位10項目: 人間, chat GPT, Grammarly による評価

Rank	Human	ChatGPT	Grammarly
1	<u>MD: missing determiner</u>	<u>MP: missing punctuation</u>	<u>MP: missing punctuation</u>
2	<u>RV: replacement verb</u>	<u>S: spelling (non-word)</u>	<u>MD: missing determiner</u>
3	<u>RT: replacement preposition</u>	<u>MD: missing determiner</u>	<u>S: spelling (non-word)</u>
4	<u>S: spelling (non-word)</u>	<u>W: word order</u>	<u>W: word order</u>
5	<u>TV: verb tense</u>	<u>MT: missing preposition</u>	<u>RT: replacement preposition</u>
6	<u>RP: replacement punctuation</u>	<u>RT: replacement preposition</u>	<u>MT: missing preposition</u>
7	<u>MP: missing punctuation</u>	<u>U: unnecessary</u>	<u>RV: replacement verb</u>
8	<u>R: replacement</u>	<u>FV: verb form</u>	<u>U: unnecessary</u>
9	<u>MT: missing preposition</u>	<u>RV: replacement verb</u>	<u>MV: missing verb</u>
10	<u>FV: verb form</u>	<u>MV: missing verb</u>	<u>FV: verb form</u>

Note. Categories underlined in the table are within the top 10 error categories identified in the human evaluation; those not underlined rank outside the top 10 in the human evaluation.

さらに、両者の間には評価観点の違いも見られる。すなわち、ChatGPTが語順(W)のような簡単な修正に焦点が当てられているのに対して、人間の修正は論理構造(AS)に踏み込んでおり、「エラー」の定義が広げられている。

Steiss et al. (2024) は、人間とAIがそれぞれ生成した200件の形成的フィードバックを比較した。事前に設定された5つの評価基準(基準に基づいているか、明確な改善指示を提供しているか、正確であるか、重要な特徴を優先しているか、サポート的なトーンを用いているか)に基づいて、スコアリングした結果を定量的ならびに定性的な混合的手法で分析した。結果として、人間のフィードバックは、改善のための明確な指示、正確性、重要な要素の優先順位づけ、支援的なトーンの使用という4つの重要な分野で、ChatGPTよりも高品質なフィードバックを提供することができ、両者間には統計的に有意な差が確認された。しかし、評価者間の違いがフィードバック評価の違いにほとんど寄与していないことも分かっている。大切なことは、ChatGPTによる自動化されたフィードバックは評価者トレーニングを必要とせずに、人間に近い品質に達している点であると著者は力説する。以上の結果を踏まえて、ChatGPTは、執筆の初期段階で学生に迅速なフィードバックを提供する目的に貢献できる可能性を示唆している。

3.3 ChatGPTの強みと弱み

EFL環境下で第二言語習得を進める外国語学習者にとりフィードバックの重要性は前述のとおりである。従来の人間によるフィードバックに比べて、生成AIが提供するフィードバックの優位性は

以下の3点に集約できるのではなかろうか。すなわち、1. フィードバックの迅速性 2. 学習者の個別ニーズに対応した個別最適性 3. 学習者の問い合わせに対するフィードバックの反復性。これらの優位性は、ライティングスキルの向上と学習者のエンゲージメントを高める要因として有効に働くことが、これまでの研究で徐々に明らかになりつつある。では、ChatGPTはライティングのどの側面に効果的な改善を促すのであろうか。また、ライティングプロセスのどの作成段階で有効なのであろうか。

Al-Garaady & Mahyoob (2023) は、EFL 学習者のライティングエラーを検出する ChatGPT の能力を人間の指導者と比較した。結果として、GPT は簡単な構文や文法の分析については高い検出能力を発揮した一方で、構造や語用論などの深いエラーを検出することはできなかった。しかし、文法の中でも冠詞や時制の一致のエラーは正しく識別ができなかったことが報告されている。反対に、大文字の使い方や句読点のエラーは認識できている。また、段落全体の明確さと一貫性を向上させるための代替的な文構造、文をより透明で説得力のあるものにするための再構成、長い文を短い文に分割して、可読性を向上させるようなアドバイスも生成されている。一言で言うならば、ChatGPT は表層的エラーを検出する上で有用である一方で、複雑なエラーを検出する際に人間とのコラボの必要性が示唆されている。

Barrett & Pack (2023) は、大学の教員 (n=68) と学生 (n=158) が6つのライティングプロセス(アイデア出し、アウトライン作成、執筆、修正、フィードバック、評価)における ChatGPT の有用性に関する認識を比較した。調査の結果、プロセスの初期段階(アイデア出しやアウトライン作成)での生成AIの使用が後の段階よりも受け入れやすいことで両者の認識が一致した。

Marzuki et al. (2023) は、4人のEFL教師を対象に半構造化インタビューを行い、AIの生成するフィードバックが学生のライティングの2つの領域(内容・文章校正)に与える影響に分析を加えた。「内容」はアイデア生成と語彙使用から構成される。アイデア生成に関する4人の評価は分かれている。学生の創造性を高めるために ChatGPT が重要な役割を果たしているという認識を持つ教師がいる一方で、AIライティングツールが学生の創造的なアイデア生成能力をむしろ妨げている可能性がある」と指摘する指導者もいる。使用語彙のレパートリー拡張に関しては、ChatGPTの持つ利点と潜在的な欠点が認識されている。AIが学生の語彙使用にプラスの影響を与えることを実感している教師もいれば、学生に複雑な言葉を過剰に使わせる結果を招く可能性があることも懸念されている。さらに、その有用性を認めつつも、過度に ChatGPT に依存することで、学生の語彙習得が長期的に遅れる可能性に警告を発する指導者もいる。

文章構成に関しては、「一貫性と論理の流れ」と「つながりことばの使用」に焦点が当てられている。前者については、教師間で評価にばらつきが見られる。ChatGPTのフィードバックがポジティブな影響を与え、思考の論理的な流れを促進すると、肯定的に捉える教師が見られる。AIによる自動フィードバックが思考を整理し、議論を構築し、論理的なギャップを特定するのに役立つことは認めながらも、同時に、過度な依存が批判的思考力や問題解決能力の発展を阻害する可能性があるとも指摘されている。後者の「つながりことばの使用」に関して、おおむね評価は一致しており、そのポジティブな側面が認識されている。具体的には、フィードバックにより、文の流れや結束性が改善され、文章の

一貫性や文章構成の向上が確認されている。

Xiao & Zhi (2023) は、中国国内のEFL大学生5名を対象に、半構造化インタビューを行い、ChatGPTのフィードバックを受ける学生の認識を調査した。結果として、5名の参加者のうち3人はフィードバックを好意的に理解している。彼らはChatGPTを教師よりもアクセスしやすい支援を提供するピア・チューターとして捉えていた。文法、語彙、エッセイの一貫性を改善するのに役立ったと感想を寄せる学生もいた。また、言語能力向上の決め手となるのは、その使い方・協力者として使うのか、代替物として使うのかであることが判明した。さらに、語彙・文法といった低次の言語スキルには役立つものの、論理性のような高次の言語スキルにはフィードバックが提供されないといった回答もあった。要するに、ChatGPTが適切に使用される場合にのみ、特定の言語スキルを強化できると言えるであろう。一方で、新しいアイデアを生み出すのにChatGPTが資することでは参加者全員の意見の一致が見られた。これは、ChatGPTがライティング・プロセスの計画段階での貢献が大きいことを示している。

Alsaedi (2024) は、EFL/ESLライティングにおけるChatGPTの利点と課題を調査することを目的に、2022年11月から2024年1月まで発表された文献から15件を絞って、レビューを行った。結果として、ChatGPTが有益なフィードバックを提供する一方で、限界もあることが分かっている。強みとして、ChatGPTが学生の推論能力とEFLライティングの質を向上させ、論理的誤りの理解と識別を促進すると指摘している。加えて、ChatGPTの相互作用的で個別最適な機能は、参加者個々の弱点に特化したリアルタイムのフィードバックを提供し、伝統的な教育方法を超える効果を持つことが認められた。それと同時に、ChatGPTに過度の依存を促進したために、ライティングの学習動機を低下させ、批判的思考を妨げる可能性があることも指摘されている。最終的に、EFL学習者のライティング能力を阻害する可能性があることにも警鐘が鳴らされている。と同時に、次のような限界も明らかになっている。すなわち、学生のエラーに対するフィードバックが表面的な問題（文法や句読点など）ばかりに焦点が当てられる傾向があった。また、ChatGPTが言語の深層構造に関連するエラーを認識できなかったことが指摘されている。さらに、EFL学習者がライティングに取り入れるのに困難なフィードバックを提示する場合がある。継続的な学習のためには、一貫した構造的なフィードバックが不可欠であるにもかかわらず、フィードバックに一貫性が欠如していることは、生成AIの限界を示していると考えられる。

Alsaedi (2024) は、ChatGPTがライティングのどの構成要素やライティングプロセスのどの段階で効果的かであるかに関しては、様々な側面と段階でサポートできることを報告している。すなわち、生成AIのフィードバックは文構造、語彙、内容、文章校正、そして一貫性などにその効果が見られた。また、アイデアの開発やアウトライン作成時においてGPTが有効に作用したことが確認されている。

Hongxia & Razali (2025) は、中国のEFL学部生70名を実験クラス（34名）、対照クラス（36名）に均等に分け、PTE（Pearson Test of English Academic）ライティングテスト1および2を事前テストと事後テストとして用いて、ChatGPTがライティング能力に及ぼす影響を探索した。その結果、ChatGPTのフィードバックを受けた実験群は、内容・構成・整合性・文法・語彙使用域・語彙・スペル・形式の全てにおいて改善が確認された。一方、伝統的な人間によるフィードバックを受けた対

照群は、内容、構造、綴り、形式でのみ上達が認められたに留まり、文法・語彙使用域・語彙では上達は示さなかった（表2）。

表2. 実験群・統制群の事前・事後テストの差（項目別）

95% CI						
EC	Mean	SD	SEM	t	df	Sig. (2-tailed)
Content	-.971	.388	.067	-14.582	33	.000
Structure	-.941	.343	.059	-16.000	33	.000
Grammar	-.324	.475	.081	-3.973	33	.000
Linguistic range	-.471	.507	.087	-5.416	33	.000
Vocabulary	-.206	.538	.092	-2.231	33	.033
Spelling	-.147	.436	.075	-1.968	33	.058
Form	-.147	.359	.062	-2.385	33	.023
CC	Mean	SD	SEM	t	df	Sig. (2-tailed)
Content	-.194	.401	.067	-2.907	35	.006
Structure	-.389	.494	.082	-4.719	35	.000
Grammar	-.056	.410	.068	-.813	35	.422
Linguistic range	-.083	.368	.061	-1.357	35	.183
Vocabulary	-.083	.368	.061	-1.357	35	.183
Spelling	-.194	.401	.067	-2.907	35	.006
Form	-.250	.439	.073	-3.416	35	.002

4. ChatGPT 導入にあたっての留意事項

2つの前章で既述のとおり、ChatGPTを始めとする生成AIはエラー情報の提供や文・段落構造の改善に有効なフィードバックを学習者に提示できることが明らかとなった。その一方で、生成AIを教育現場で利用するに際しては、慎重に進めることが望ましいという意見が数多く寄せられている。それらは、評価の公平性につながる問題、ライティング学習と能力の育成が阻害される問題、個人情報保護に関する問題の3つに大きく分類される。

まず、評価の公平性に関して、その最大の懸念事項は、「学問的誠実性への懸念」ということばに集約される。それは、人間のようなテキスト生成能力を持つChatGPTの負の側面と言ってよいのかもしれない。アイデアの創出、アウトライニング、英文作成・編集など、ライティングプロセスの全ての段階で文章作成作業をChatGPTに丸投げして、そうやって生成された文章を学習者がそのまま提出する可能性を否定できないところがある。Derakhshan & Ghiasvand (2024) は、ChatGPTへの過度な依存が、最終的にL2評価に対しても悪影響を与える可能性を指摘し、評価の公平性の問題にもつながりかねないと懸念を表明している。

このAIの潜在的な不正使用をStewart (2023) は、Chomskyの言葉を借りて、「ハイテク盗作」と呼んでいる。誠実性の欠如が高じた結果、AIが生成したテキストの内容を理解することなく不用意に使用することで、盗作の問題が現実味を帯びてくる可能性がある (Barrett & Pack, 2023; Song & Song, 2023)。Day (2023) は、こうしたリスクを軽減するために、AIの倫理的使用に関するガイドラインとベストプラクティスを確立することが必要と考える。ユーザーにAIツールの責任ある使用について教育することと潜在的な悪影響を防ぐ重要性を提唱する。Cotton et al. (2023) も、不正利

用を軽減するには学術的誠実性に関する明確なガイドラインを設ける必要性を強調している。

他方の、ライティング学習とスキルの発達に関連する問題については、次のような意見が表明されている。まず、Derakhshan & Ghiasvand (2024) は、ChatGPTを教室環境で用いることによって、教師と学生の相互作用が損なわれる可能性がL2教育にとって危険な兆候を孕んでいると指摘する。著者は、インタビューにおける指導者の発言を紹介している。

スピーキングやリスニングのスキルは、人間同士の相互作用に大きく依存しており、例えば音調、ボディランゲージ、文化的な微妙な違いなどが重要です。ChatGPTのようなツールは強力ではあるものの、教師と学生のリアルタイムのやり取りにおけるダイナミックで共感的な交流を再現することはできません。

次に、AI生成コンテンツへ過度に依存することにより、批判的思考能力や問題解決能力が育ちにくくなる可能性も指摘されている (Al Shloul et al., 2024)。同様な指摘は、Marzuki et al. (2023) が引用する以下のインタビュー記事にも見られる。

「これらのツールは、学生が思考を整理し、議論を構築し、論理のギャップを特定するのに役立ちます。しかし、学生がこれらのツールに過度に依存することで、効果的なライティングに必要な批判的思考力や問題解決能力の発展を見落とす可能性があります。」

最後に、個人情報の保護に関しては、次のような意見が寄せられている。Baskara (2023) は、AI使用時の個人データを利用するに際して、公平で倫理的な保証を担保する戦略の開発が重要であると指摘する。その配慮には、データ使用についての明確な情報提供、データ使用を拒否する選択肢を個人に供与することなどが含まれる。また、個人データの匿名化や練習目的以外には使用しない保証が重要であるとする。

5. まとめにかえて

Teng (2024) は、先行きの見通しがききにくい21世紀の学習環境では、AI生成のアウトプットを鵜呑みにすることなく、批判的に分析する能力を身に付け、AIリテラシーを高めていく必要性がますます進むことを予想する。そのリテラシーとは、人間と機械による双方向の対話を可能にする能力で、AIを批判的に理解・評価し、安全かつ倫理的に使用して、今後デジタル化が進む世界に積極的に参加するための知識とスキルが含まれると解釈している。

ChatGPTは、こうした進化するニーズに対応したAIリテラシーと目標言語を習得する上で必要とされる潜在能力を持つ。しかしながら、AIへの過度な依存は様々な危険を孕んでいる。個人情報の流出、AIによるデータ収集と分析のリスク、人間との対話や人間による指導の重要性の低下など、ChatGPTを教育環境に実装するに際しては、そのような危険を絶えず念頭に置いておかねばならな

いであろう。

金丸（2023）は、生成AIの登場により指導者としての教師の役割に変化が生じる可能性を示唆している。教師に求められるのは、学習のやり方である「ストラテジー」の指導に留まらず、AIが生成したものを基にどうやって学習者に学びを深めさせていくかであると述べている。山下等（2024）は、ライティング指導の最終目的は、「自律的な書き手を育てること」であるという佐渡島・太田（2013）の言を引用している。ここで言う、「自律した書き手」とは、自分で求められた英文を書ける知識と技能、そして自分で修正できる自己修正力を持つ書き手を意味する。同様に、金丸（2024）も、「AIを活用した自律的学習（AI-Assisted Autonomous Learning: AAAL）」という考えを提唱している。その目標は、AIを積極的に導入することで、学習者が自律的に学び続ける態度を身に付けることを指す。

今後に迎える高度にデジタル化が進んだ情報社会は、将来の見通しがききにくい、不透明さがますます増す社会となろう。デジタルリテラシーを身に付けられないのは、海図も羅針盤も持たずに言語習得という荒海に突き進まんとする蛮行と言えるかもしれない。技術志向が高まる21世紀の学習環境の中で、予測しがたい未来に備えて、そのリスクも勘案しながら、デジタルスキルの強化を図りつつ、自律した学習者を育むことこそ、学習者を支援する立場の教育者としての責務と言えるかもしれない。

注

- 1) Grammarly は、人工知能と自然言語処理を用いたデジタルライティングツールを開発しているアメリカの多国籍企業。機械学習とディープラーニングのアルゴリズムを駆使し、文法チェック・スペルチェック・盗用検出のためのサービスを提供している。

参考文献

- Al Shloul, T., Mazhar, T., Abbas, Q., Iqbal, M., Ghadi, Y. Y., Shahzad, T., Mallek, F., & Hamam, H. (2024). Role of activity-based learning and ChatGPT on students' performance in education. *Computers and Education: Artificial Intelligence*, 6, 100219. <https://doi.org/https://doi.org/10.1016/j.caeai.2024.100219>
- Algaraady, J. & Mahyoob, M. (2023). ChatGPT's Capabilities in Spotting and Analyzing Writing Errors Experienced by EFL Learners. *Arab World English Journal (AWEJ) Special Issue on CALL*, (9) 3-17. <https://dx.doi.org/10.24093/awej/call9.1>
- Alsaedi, N. (2024). ChatGPT and EFL/ESL Writing: A Systematic Review of Advantages and Challenges. *English Language Teaching*, 17(5), 41-50. <https://doi.org/10.5539/elt.v17n5p4>
- Barrett, A., & Pack, A. (2023). Not quite eye to AI: Student and teacher perspectives on the use of generative artificial intelligence in the writing process. *International Journal of Educational Technology in Higher Education*, 20(1), Article 59. <https://doi.org/10.1186/s41239-023-00427-0>
- Baskara, FX. R. (2023). Integrating ChatGPT into EFL writing instruction: Benefits and challenges, *International Journal of Education and Learning*, 5(1), 44-55

- Bucol, J. L., & Sangkawong, N. (2024). Exploring ChatGPT as a writing assessment tool. *Innovations in Education and Teaching International*. <https://doi.org/10.1080/14703297.2024.2363901>
- Chan, S., Lo, N. & Wong, A. (2025). Leveraging generative AI for enhancing university-level English writing: comparative insights on automated feedback and student engagement, *Cogent Education*, 12: 1, 2440182. DOI: 10.1080/2331186X.2024.2440182
- Cotton, D., Cotton, P. A., & Shipway, J. R. (2023). Chatting and cheating: Ensuring academic integrity in the era of ChatGPT, *Innovations in Education and Teaching International*, 61(2), 228–239. DOI: 10.1080/14703297.2023.2190148
- Day, T. (2023). A preliminary investigation of fake peer-reviewed citations and references generated by ChatGPT. *The Professional Geographer*, 75(6), 1024–1027. <https://doi.org/10.1080/00330124.2023.2190373>
- Derakhshan, Ali & Ghiasvand, F. (2024). Is ChatGPT an evil or an angel for second language 14 education and research? A phenomenographic study of research-active EFL teachers' perceptions. *International Journal of Applied Linguistics* ijal.12561. <https://doi.org/10.1111/ijal.12561>.
- Ferris, D. R. (2010). Second language writing research and written corrective feedback in SLA. *Studies in Second Language Acquisition*, 32(2), 181–201. <https://doi.org/10.1017/s0272263109990490>
- Ferris, D. R. (2012). Written corrective feedback in second language acquisition and writing studies. *Language Teaching*, 45(4), 446–459. <https://doi.org/10.1017/s0261444812000250>
- Guo, K., & Wang, D. (2024). To resist it or to embrace it? Examining ChatGPT's potential to support teacher feedback in EFL writing. *Education and Information Technologies*, 29. 8435–8463. DOI: 10.1007/ s10639-023-12146-0
- Hattie, J., & Timperley, H. (2007). The power of feedback. *Review of Educational Research*, 77(1), 81–112. <https://doi.org/10.3102/003465430298487>
- Hongxia, H., & Razali, A. B. (2025). Impact of ChatGPT on English academic writing ability and engagement of Chinese EFL undergraduates. *International Journal of Instruction*, 18(2), 323–346.
- Huang, J. (2023). Engineering ChatGPT Prompts for EFL Writing Classes, *International Journal of TESOL Studies*, Vol. 5 (4) 73–79. <https://doi.org/10.58304/ijts.20230405>
- Huang, J. & Teng, M. F. (2025). Peer feedback and ChatGPT-generated feedback on Japanese EFL students' engagement in a foreign language writing context. *Digital Applied Linguistics*, 2, 102469.
- Huang, J., & Mizumoto, A. (2024). Examining the effect of generative AI on students' motivation and writing self-efficacy. *Digital Applied Linguistics*, 1, 102324. <https://doi.org/10.29140/dal.v1.102324>
- Hyland, K., & Hyland, F. (2006). Feedback on second language students' writing. *Language Teaching*, 39(2), 83–101. DOI: 10.1017/s0261444806003399
- 金丸敏幸 (2024). 生成AIの登場は言語教育をどのように変えていくのか? —実践の中で見えてきた可能性と課題, 「口頭発表」, EDIX東京2024セミナー
- Law, L. (2024). Application of generative artificial intelligence (GenAI) in language teaching and 14 learning: A scoping literature review. *Computers and Education Open* 6. 100174. <https://doi.org/10.1016/j.caeo.2024.100174>.
- Li, B., Lowell, V. L., Wang, C., & Li, X. (2024). A systematic review of the first year of publications on ChatGPT and language education: Examining research on ChatGPT's use in language learning and teaching. *Computers and Education: Artificial Intelligence*, 7(100266). <https://doi.org/10.1016/j.caeai.2024.100266>
- Lo, C. K., Hew, K. F., & Jong, M. S. (2024). The influence of ChatGPT on student engagement: A systematic

- review and future research agenda. *Computers & Education*, 219, 105100. <https://doi.org/10.1016/j.compedu.2024.105100>
- Marzuki1, Widiati, U., Rusdin, D., Darwin & Indrawati, I. (2023). The impact of AI writing tools on the content and organization of students' writing: EFL teachers' perspective. *Cogent Education*, <https://doi.org/10.1080/2331186X.2023.2236469>
- 水本篤 (2024). AIとライティング教育—英語ライティング教育における生成AIの活用と課題—, retrieved from https://mizumot.com/files/AI_L2writing.pdf
- Mizumoto, A. & Eguchi, M. (2023). Exploring the potential of using an AI language model for automated essay scoring. *Res Methods Appl Linguist* 2(2): 100050. <https://doi.org/10.1016/j.rmal.2023.100050>
- Mizumoto, A., Shintani, N., Sasaki, M., & Teng, M. F. (2024). Testing the viability of ChatGPT as a companion in L2 writing accuracy assessment. *Research Methods in Applied Linguistics*. <https://doi.org/10.1016/j.rmal.2024.100116>
- 文部科学省 (2023a). 「大学・高専における生成AIの教学面の取扱いについて (周知)」(事務連絡), https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2023/mext_01260.html
- 文部科学省(2023b). 「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」の作成について(通知), https://www.mext.go.jp/content/20230704-mxt_shuukyo02-000003278_003.pdf
- Ng, D. T. K., Tan, C. W., & Leung, J. K. L. (2024). Empowering student self-regulated learning and science education through ChatGPT: A pioneering pilot study. *British Journal of Educational Technology*, 55(4), 1328–1353. <https://doi.org/10.1111/bjet.13454>
- Qazi, M.H., Munir, T., & Zaigham, M.S. (2025) The Impact of AI-assisted Self-regulated Learning, specifically chat GPT, on Students' Engagement and Writing Skill Enhancement, *Journal of Applied Linguistics and TESOL*, 393–415.
- 佐渡島沙織・太田裕子 (2013). 『文章チュータリングの理念と実践—早稲田大学ライティング・センターでの取り組み』ひつじ書房
- Song, C., & Song, Y. (2023). Enhancing academic writing skills and motivation: Assessing the efficacy of ChatGPT in AI-assisted language learning for EFL students. *Frontiers in Psychology*, 14, 1260843. <https://doi.org/10.3389/fpsyg.2023.1260843>
- Steiss, J., Tate, T., Graham, S., Cruz, J., Hebert, M., Wang, J., & Olson, C. B. (2024). Comparing the quality of human and ChatGPT feedback of students' writing. *Learning and Instruction*, 91, 101894. <https://doi.org/10.1016/j.learninstruc.2024.101894>
- Stewart, J. (2023, February 17). Noam Chomsky says ChatGPT is a form of “high-tech plagiarism”. <https://mymodernmet.com/noam-chomsky-chatgp>
- Teng, M. F. (2024). ChatGPT is the companion, not enemies: EFL learners' perceptions and experiences in using ChatGPT for feedback in writing. *Computers and Education: Artificial Intelligence* 100270. <https://doi.org/10.1016/j.caeai.2024.100270>.
- Teng, M. F., & Huang, M. J. (2025). Incorporating ChatGPT for EFL writing and its effects on writing engagement. *International Journal of Computer-Assisted Language Learning and Teaching*, 15(1), 1–21.
- Wu, Y. W. (2024). Artificial Intelligence in L2 learning: A meta-analysis of contextual, instructional, and social-emotional moderators. *System* (126). <https://doi.org/10.1016/j.system.2024.103498>
- Xiao, Y. & Zhi, Y. (2023). An exploratory study of EFL learners' use of ChatGPT for language learning tasks: Experience and Perceptions

- Xu, T. & Wang, H. (2024). The effectiveness of artificial intelligence on English language learning achievement, *System* (125). <https://doi.org/10.1016/j.system.2024.103428>
- 山下美朋・山中司・杉山滉平, (2024). AI ツールを活かした英語ライティング授業—英文作成支援ツール Transable を導入して, 『立命館高等教育研究』 24 号, 75-87.
- Yang, L., & Li, R. (2024). ChatGPT for L2 learning: Current status and implications. *System*, 124, 103351. <https://doi.org/10.1016/j.system.2024.103351>
- Yee, W., Lai, W., & Lee, J. S. (2024). A systematic review of conversational AI tools in ELT: Publication trends, tools, research methods, learning outcomes, and antecedents *Computers and Education: Artificial Intelligence*, 7. <https://doi.org/10.1016/j.caeai.2024.100291>
- 吉田壘. (2023). ChatGPT を始めとする生成 AI の教育における活用, 「口頭発表」, 令和 5 年度日本語教育機関教員と高等教育機関留学生教育担当者との研究協議会, 日本学生支援機構 東京日本語教育センター, オンライン (Zoom Webinar), 2023 年 12 月 17 日